

次世代シーケンサーを用いた 統合分子病理診断の試み



谷本昭英先生

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科
先進治療学専攻 腫瘍学（病理学分野）教授
鹿児島大学病院 病理部・病理診断科 部長

ご略歴

- 1988年 産業医科大学医学部卒業
- 1989年 産業医科大学医学部 第2病理学助手
- 1995年 アメリカ合衆国カンザス大学留学
- 1999年 産業医科大学医学部 第2病理学講師
- 2001年 同 助教授
- 2002年 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 病理部医員
- 2005年 産業医科大学医学部 第2病理学助教授
- 2007年 同 准教授
- 2009年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科分子細胞病理学（現病理学）教授
- 2011年 鹿児島大学病院 病理部・病理診断科 部長 兼任

ゲノム医療の進歩により、治療選択だけでなく、病理診断に際してもゲノム解析の重要性が増加している。

脳腫瘍や子宮内膜癌では WHO 分類にゲノムプロパイルを加味した分子診断が導入され、とくに神経膠腫の病理診断ではゲノム解析が必須となった。

本講演では、鹿児島大学病院で行われている統合分子解析の実際について紹介し、今後、さらに加速することが予想される統合診断の活用とその有用性について概説する。

担当 金沢医科大学 臨床病理学 山田壮亮 教授

共催 北信がんプロ ※ がんプロe-learning科目の演習対象となる講演会です。

問い合わせ先 金沢医科大学教学課（大学院医学研究科担当） d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp

